

平成19年度

## 病虫害発生予察特殊報(第4号)

平成19年11月5日  
神奈川県農業技術センター所長

病虫害名：アワダチソウグンバイ

*Corythucha marmorata* Uhler

作物名：キク、ヒマワリ、ルリタマアザミ等

### 1 発生経過

- 平成19年9月に、平塚市内の圃場からグンバイムシ類が寄生しているルリタマアザミが持ち込まれた。その後、伊勢原市内の圃場からも同じグンバイムシ類が寄生しているヒマワリが持ち込まれた。
- 9月28日に農業技術センター病虫害防除部職員が現地を調査したところ、キク及びルリタマアザミの葉裏に寄生し吸汁する成虫と幼虫を確認した。圃場付近の雑草もあわせて調査したところ、セイタカアワダチソウ、ヒメムカシヨモギ、クワイモへの寄生が確認された。
- 現地で採集した成虫を農林水産省横浜植物防疫所に同定依頼をしたところ、アワダチソウグンバイと同定された。
- 本種は北米原産で、国内では2000年に兵庫県で最初に確認された。その後、22都府県で発生報告があり、広く分布している。

### 2 形態および生態

#### (1) 形態

成虫の体長は約3 mmで軍配に似た形状をしており、前翅には多数の特徴的な不定形の褐色斑がある。前翅の周縁部に顕著な棘を列生し、これらの特徴で日本産の他のグンバイムシ類と容易に識別できる。

幼虫は全身が褐色の紡錘形で、翅芽の基部や腹部の基部がやや暗褐色になる。

#### (2) 生態

大阪府の調査によれば、セイタカアワダチソウでは5月～11月に発生が見られ、特に6～8月が多い。露地栽培夏ギクではセイタカアワダチソウで発生した成虫が飛来することにより寄生が始まるものと推測されている。

成虫、幼虫とも葉裏に寄生し、特に幼虫は集団で吸汁加害する。成虫で越冬する。

### 3 被害及び寄主植物

#### (1) 被害

吸汁により葉の表面にかすり状の脱色斑点が発生するほか、排泄物により茎葉に汚れが発生する。加害が進行すると葉が黄化、枯死する。

## (2) 寄主植物

県内で発生を確認した植物はキク、ヒマワリ、ルリタマアザミなどのキク科作物とセイタカアワダチソウなどのキク科雑草であった。

他県ではサツマイモ、エボルブルス（アメリカンブルー）などのヒルガオ科作物やナスにも寄生するという報告がある。

## 4 防除対策

(1) ほ場周辺のキク科雑草は重要な発生源となるため、ほ場周辺の除草を徹底する。

(2) 薬剤による防除では、キクではコテツフロアブル（発生初期、2回、2000倍）を発生時に散布する。



図1 野外での寄生状況  
(ルリタマアザミ)



図2 成虫



図3 幼虫及び成虫

神奈川県農業技術センター  
病害虫防除部  
〒259-1204 平塚市上吉沢1617  
TEL 0463-58-0333  
FAX 0463-59-7411  
テレホンサービス0463-58-6612  
<http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshou/top.asp>